

# ロマンス語と日本語の対照：イタリア語 vs 日本語

## Confronto tra le lingue romanze e il giapponese : italiano vs giapponese

菅田 茂昭  
Shigeaki SUGETA

### 1. 目標

イタリア語と日本語との比較は、類縁性内の多様性ではなく、類縁性を欠く絶対的多様性の場合の比較である (cfr. *Cours* p.263)。とはいえ両言語の間にも類似点と差異が認められる。ここではこの二つの言語を区別する一般的な特質のうち主要なものをとり挙げ、報告 (要約) したい。

### 2. 類型論の限界

伝統的には類型論の枠組みの中でイタリア語は屈折言語、日本語は膠着言語とされるのが通例である。しかしこの区分には限界があること、それは単に優勢的な傾向を指示するに過ぎないことは、ラテン語の屈折に代わるイタリア語の前置詞と日本語の後置詞との関連性、イタリア語の語形成における派生と合成の手順がそれぞれ膠着的および孤立的なものであることなどを考慮すれば十分であろう。

*Italia* > *italiano* : イタリア > 《イタリアの》  
*treno* + *merci* > *treno merci* : 貨物 + 列車 > 《貨物列車》

### 3. 正書・音声レベル

3.1. 文字：二つの言語を区別する最大の特質は、正書体系に現われる。21文字素 (外来語表記に用いられるものを含めて26文字) からなるイタリア語に対して、日本語は3種類の文字、すなわち50音図に代表されるひらがなおよびカタカナ (2種類の仮名は漢字の異なる簡略化に由来する) と (音・訓を区別する) 漢字 (現在常用としておよそ2千字が定められている) が混在するという特異性をもつことが指摘される。

3.2. 音節構成：日本語では最小単位が伝統的に音素ではなく、50音図に代表される音節 (モーラ) であったことに注目すべきである。一定数の母音と子音との定着は、可能な音節を閉ざされた集合になる、およそ112個 (すべて開音節) に留め、そのため音節の組合せがイタリア語のものよりはるかに限定される。その結果、日本語では同音異義語の発生率が高い (《公園》～《講演》～《公演》など)。

角田忠信説によれば、ヨーロッパ人は母音を右脳で、子音は左脳で処理するのに対して、日本人は母音、子音ともに左脳で処理するという。この違いが、これは私見であるが、音節構成の差に影響しているとするれば、50音図の成立を裏付けるものとして興味深い。

なお、音素体系自体については、類似性が差異を上回ると言える。ただし日本語はイタリア語などに見られる子音連結を欠くことに注目しておく。その結果、

*pasta* → *pa-su-ta* 《パスタ》。

3.3. アクセント：イタリア語の強さアクセントに対して、日本語では高さアクセントである。したがって

*canto* 《私は歌う》： *cantò* 《彼(女)は歌った》

*hashi* 《箸》： *hashi* 《橋》、 *tsuru* 《鶴》： *tsuru* 《蔓》

(ただし同音異義語として《釣る》～《吊る》)

3.4. リズム：研究の遅れている分野でもあり、英語の *stress-timed* に対して、イタリア語、日本語ともに *syllable-timed* である点が共通であることに触れるに留めたい。

#### 4. 形態・統語レベル

文法は対照言語間の差異をさらに際立たせるレベルである。

4.1. 冠詞：無冠詞の日本語とイタリア語とは次のような対照をなす。

『雪国』 (\**paese* (*di*) *neve*) → *il paese delle nevi*

*Il nome della rosa* → 『薔薇の名前』 (\**nome* *di* *rosa*)

4.2. 文法範疇としての性と数：日本語には《男友達：女友達》、《山：山々》、《私：私たち》、《3冊の本》 *tre copie di libri* のように対応する限られた表現を除き、設定しえない存在である。

4.3. 動詞：伝統的な日本語の動詞活用表から離れて、動詞が語幹と語尾とから構成されるとすれば、日本語の動詞は子音語幹と母音語幹 (それぞれ *kak-u* 《書く》、*tabe-ru* 《食べる》) などの2種類に単純化される。したがって日本語のことに単純な過去標識 *-ta* 《た》 (*tabe-ta* 《食べた》) などは形態音素的調整 (*kak-ta* > *kaita* 《書いた》) などは別として、ロマンス語の過去時制に関する複雑な屈折と対比させられる。

4.4. 形容詞：連結詞なしで動詞句をなす日本語の形容詞の存在は、イタリア語とは対照的である。《この車は赤い》： *Questa macchina è rossa.*

4.5. 指示詞：日本語のいわゆるコ・ソ・ア・ドに対応する形式がイタリア語にも *questo, codesto* < (EC)CU(M)+T(IBC)+ISTU(M), *quello, dove* のように存在する。ただし *codesto* はトスカーナ方言に限られる。

4.6. 人称代名詞 (主語ほか)：主語としては、イタリア語では動詞の屈折で表示されるため、とくに強調形としての機能をもつに過ぎないが、日本語においても使用率の低下が指摘される。

4.7. 否定代名詞：イタリア語の *nessuno* 《誰も～ない》、*niente* 《なにも～ない》に対応する日本語は存在しない。

- 4.8. SVO：日本語ではこれにSOVが対応する。これと平行する特質として
- 4.9. 前置詞と後置詞(助詞)：*di Tokyo*：《東京の》
- 4.10. 名詞と形容詞の語順：*la macchina nuova*：《新しい車》
- 4.11. 動詞と副詞の語順：*mangiare bene*：《よく食べる》
- 4.12. 助動詞の位置：*posso venire*：《来れます》などにおける違いを挙げることができる。
- 4.13. 関係代名詞：日本語には存在せず、《…ところの》は翻訳のために考案されたものである。
- 4.14. *wh-*の位置：疑問代名詞の文頭への移動が日本語では起こらない。

*Cosa fai oggi?*：《今日は何をしますか?》

- 4.15. 疑問文の標識-*ka* (cfr. ラテン語の-*ne*) に相当するものがイタリア語には存在せず、イントネーションや倒置による。
- 4.16. 自動詞の受動形式：*dativo etico* の場合《私は雨に降られました。》、《あの人に泣かれた》などに対応する形式はイタリア語には見られない。

## 5. 語彙レベル

開要素からなる語彙については、イタリア語との対照をなす次の3点に限り注目しておきたい。

- 5.1. 固有語と外来語：日本語に古来の大和ことば(和語)とともに中国起源の大量の漢語、さらにはヨーロッパほかからの外来語が加わるのに、イタリア語(あるいはロマンス語一般)の成立過程における民衆語と学者語、さらに外来語が対応する。《宿屋》～《旅館》～《ホテル》に対し、イタリア語にも *albergo* と *hotel* がある。特異な語形成《コピー：コピーする》に対しても、イタリア語において *tatami* 《畳》：*tatamizzare* 《畳を敷く》が見られるのは興味深い。

- 5.2. 擬声語・擬態語：イタリア語に比べて日本語では格別に豊富であることは注目に値する。

《ザアザア降る》：*piove a dritto*、《ゴロゴロ鳴る》：*tuona*

《ニコニコ笑う》：*sorridere*、《シクシク泣く》：*piangere sommessamente*

なおオノマトペは、ソシュールの言語記号の恣意性に反するものではなく、すでに語彙化されていると見做されるべきであろう。

- 5.3. 敬語：

日本語における尊敬語、謙讓語、丁寧語といった3種類の区別は、イタリア語には翻訳は可能だが、存在しない。

《私に下さいますか?》：*Potrebbe darmi ...?*

《お酒》：*buon vino*

## 6. 方言区分

さいごにイタリアも日本に劣らず方言分化の著しい国である。La Spezia-Rimini 線がイタリア方言を南北に（ロマンス語圏全体は東西に）2分しているのに対し、日本の方言は新潟県の糸魚川と静岡県浜名湖を結ぶ線が東西に2分されるという現象は大変興味深い対照であると言える。

トスカーナ *amico* : ヴェネト *amigo* 《友達》  
関東 《買った》: 関西 《買った》

### 付記

本稿は2008年10月 Viterbo の Tuscia 大学で開催された国際シンポジウム“Plurilinguismo, Multiculturalismo, Apprendimento delle lingue : confronto tra Giappone e Italia”において発表したもの[同名のタイトルで刊行されている (Sette Città, 2009)]をもとに日本語で書き改め要約したものである。今後は応用言語学あるいは外国語教育の視点に代わる *Linguistica educativa* (教育言語学) の立場で以上の基準が役立つことを願っている。なお、日伊語の対照研究の各論に関しては、ことに古浦敏生広島大学名誉教授の諸論文を参照されたい。